

残したい



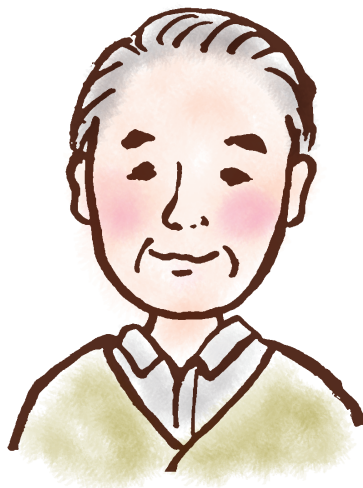
想いと風

高山市
清見町

ひねりの舞保存会

上坪 道利さん

ひねりの舞はここにしかない
大事なものと感じとる。
情熱のある若い者もおるで
支えて伝えていきたいな。



7年に1度、幻の舞

高山市清見町にある上小
鳥八幡神社には、7年に1
度奉納される「ひねりの舞」
が伝わっています。

ここに生まれ育った上坪
道利さんは、7歳の頃「旗持」
を努めて以来、参加してき
ました。大人になり「奴」
や「弓引」を演じる頃にな
ると「ここにしかないもの、
続けていかねば」という想
いが強くなりました。
平成10年からは地域の仲
間とともに保存会を立ち上
げ、活動しています。
過疎化が進む上小鳥地区
は現在十数世帯となり、子
どもの踊り手が少なくなっ
ています。隣の地区にも参
加を仰ぎ、時には7年以上
の間隔が開きながらも存続
させてきました。



長刀 (なぎなた)
中学生 2名

大傘 (おおがさ)
中学生 2名



鉄箱 (はさみばこ)
中学生 2名



槍持 (やりもち)
中学生 2名



箒持 (ほうきもち)
小～中学生 2名



奴 (やつこ)
成人 2名

市指定無形民俗文化財
ひねりの舞

露払いを先頭に
一対ずつの 旗持・箒持・槍持・鉄箱
大傘・奴・長刀・最後尾に弓引。
それらの間々に 花傘 が入ります。

昔は女役も男性が女装していましたが、
今は女性も参加します。



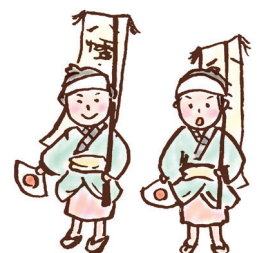
弓引 (ゆみひき)
成人 4名



花傘 (はながさ)
幼児～小学生 2名



露払い (つゆはらい)
12～14歳 1名



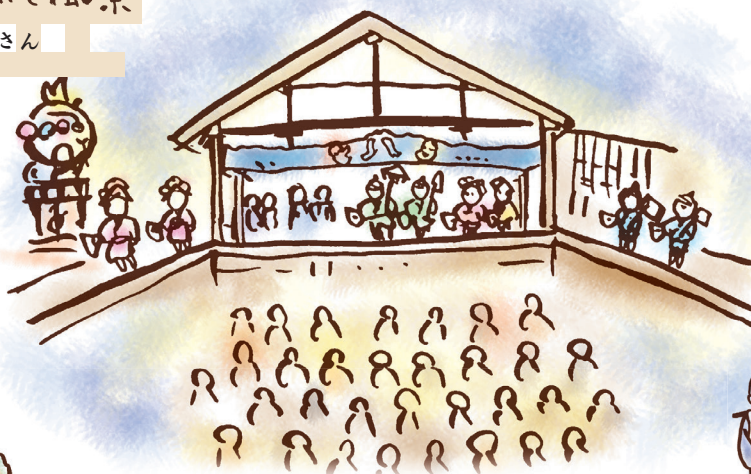
旗持 (はたもち)
小学生 2名



太鼓



獅子舞



境内には舞台と花道が作られ、踊り手のほか、獅子舞・太鼓・笛・歌い手など総勢 40～50 名ほどが出演します。



歌い手



笛

はじまりと歴史

明治40年頃、今の場所に神社を移し屋根も新しくしたお祝いに、舞を踊ったのが最初だと伝わっています。

その後はおおむね7年ごとに開催してきました。「3、5、7」がおめでたい数だということや、お金や労力も大きく頻繁にはできないので7年になったのではないかと推測しています。

元々は隣の莊川から習ってきた舞なのですが、その後あちらでは途絶えてしまい、逆に習いに来たということもあったようです。

準備は力を合わせて

祭は9月18日。7月後半から稽古を始め、本番が近づくと毎日集まります。小

さな子どもの振付けは保護者の方も覚えて、家でも教えてもらいます。

当日は午後から地域の寺に集まり、大忙しで化粧や衣装の着付け、腹ごしらえもすませて出番に備えます。

幻想的なひととき

午後7時、かがり火が灯る中を神社まで行列します。境内には花道や舞台が作られ、提灯や獅子舞に続いて踊り手たちが登場。先頭の「露払い」から最後尾の「弓引き」が勢ぞろいし、舞を披露しながら大きな輪になっていきます。

太鼓や笛の音に観客からの掛け声が重なり、不思議な一体感に包まれながら盛り上がりは最高潮に。午後9時ころまで続きます。

いま、伝えたいこと



(文・絵 高山市)
大森貴絵

少子高齢化で子どもや若者が減っていったし、7年にあたる時期にはコロナ禍で人を集めづらい状況も重なっていった。今はまた「ひねりの舞」が出来ることを願いながら、機が熟すのを待っているとところです。

しかし、地域には情熱を持っている頼もしい若い世代もある。9年、それ以上の間隔になるかはわからんけど、気運が高まった時には、**伝承して支えたい**と思っとるんや。